

2023年度事業戦略コンサルティングに関する業務委託

教員研修受講者アンケート結果

2023年10月12日

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

世界が進むチカラになる。



目次

- I. 調査概要
- II. アンケート集計結果

I. 調査概要

1. 調査実施方法・調査対象

- アルバ・エデュが実施する教員研修の受講者を対象に、Googleフォームを用いて受講後にアンケートを実施した。
- 各研修の実施時期、回答者数、実施時期は以下のとおり。

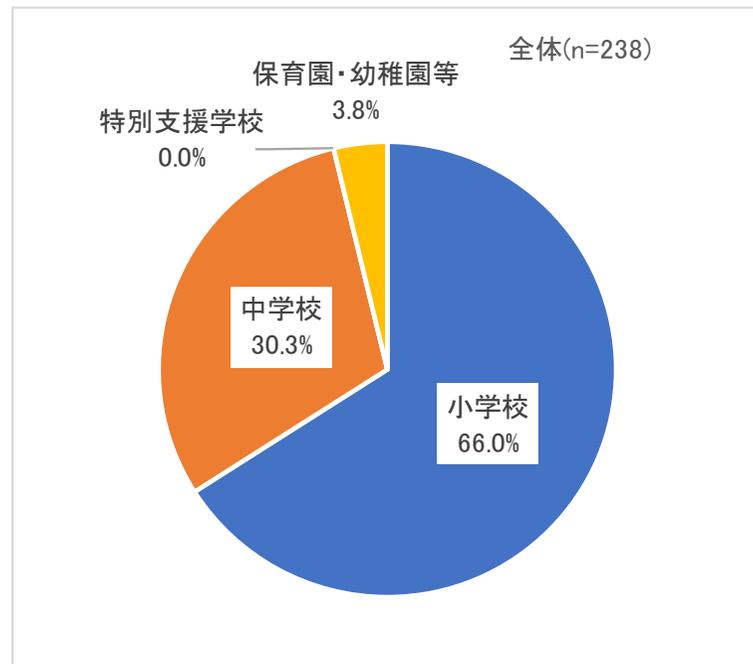
	研修実施先	研修実施日	研修参加者数
1	静岡県富士宮市4校合同研修会	2023年7月31日	25
2	市原市教員研修会	2023年8月1日	62
3	安城市国語科教員研修会	2023年8月2日	143
4	泉大津市立東陽中学校	2023年8月4日	25
5	世田谷区教員研修会	2023年8月24日	105
6	さいたま市立島小学校	2023年8月25日	40
7	文京区千駄木地区教員研修会	2023年8月28日	60
8	葛飾区立川端小学校	2023年9月9日	20
9			
			合計 480 (うち有効回答数) (238)

II. アンケート集計結果

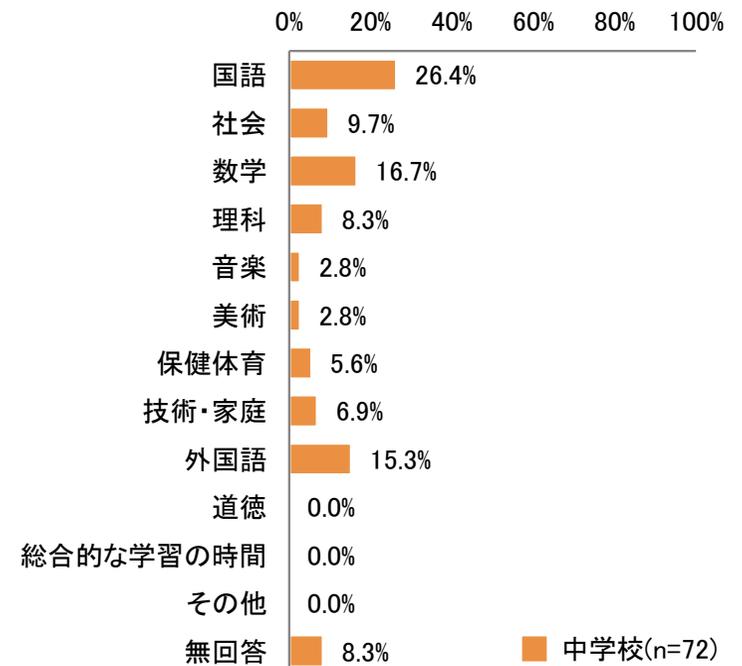
1. 回答者の属性

- 回答者(研修受講者)は、小学校・中学校の教員が9割超を占めていた。
- 中学校教員の担当教科は、「国語」「数学」「外国語」が上位を占めていた。

Q1.校種(単数回答)



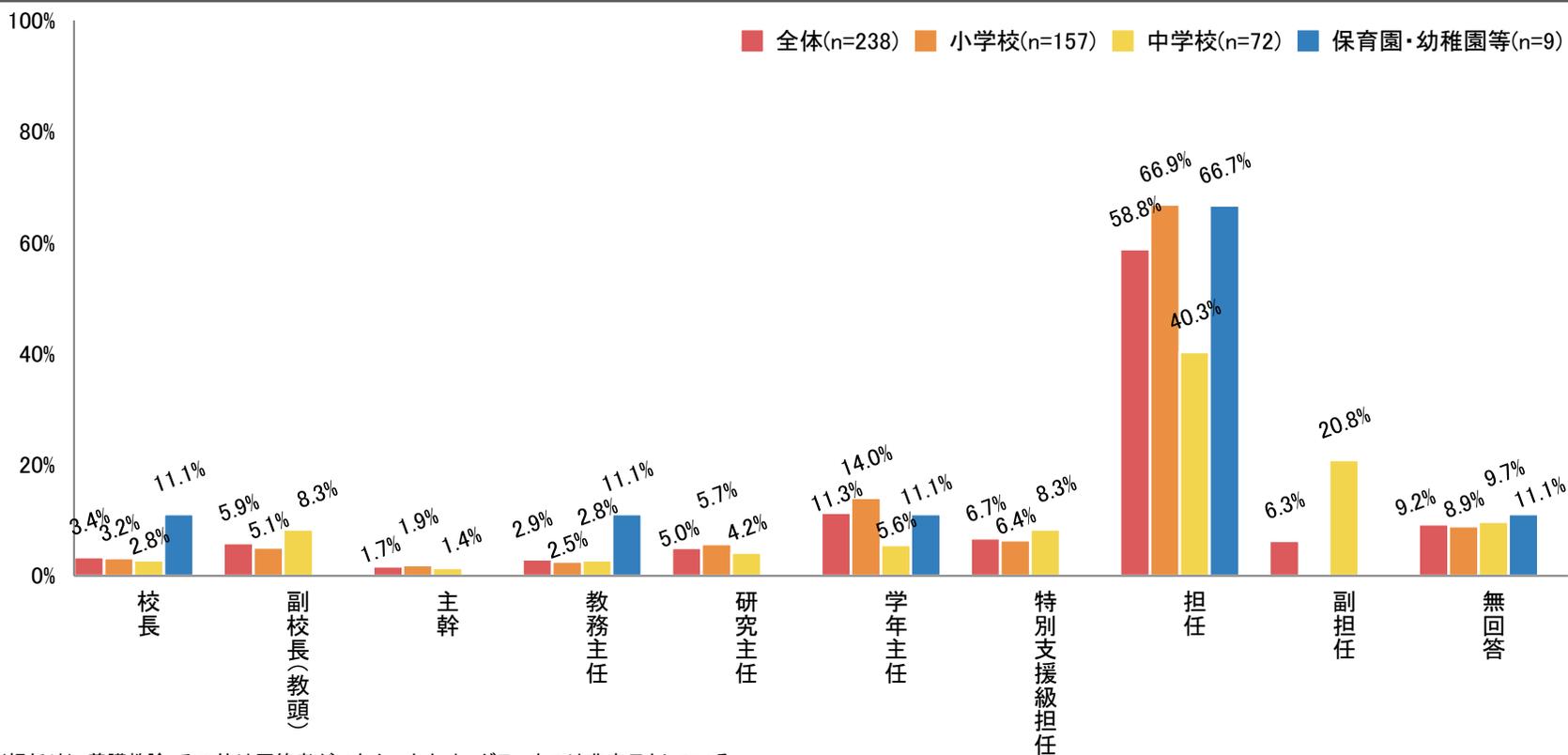
Q2.担当教科(複数回答)



1. 回答者の属性

- 回答者(研修受講者)の役職は、全体では「担任」が約6割となっていた。
- 小学校教員では全体に比べて「担任」の割合が高くなっていた。

Q3. 役職(複数回答)



※教務部(担任外)・養護教諭・その他は回答者がいなかったため、グラフ中では非表示としている。

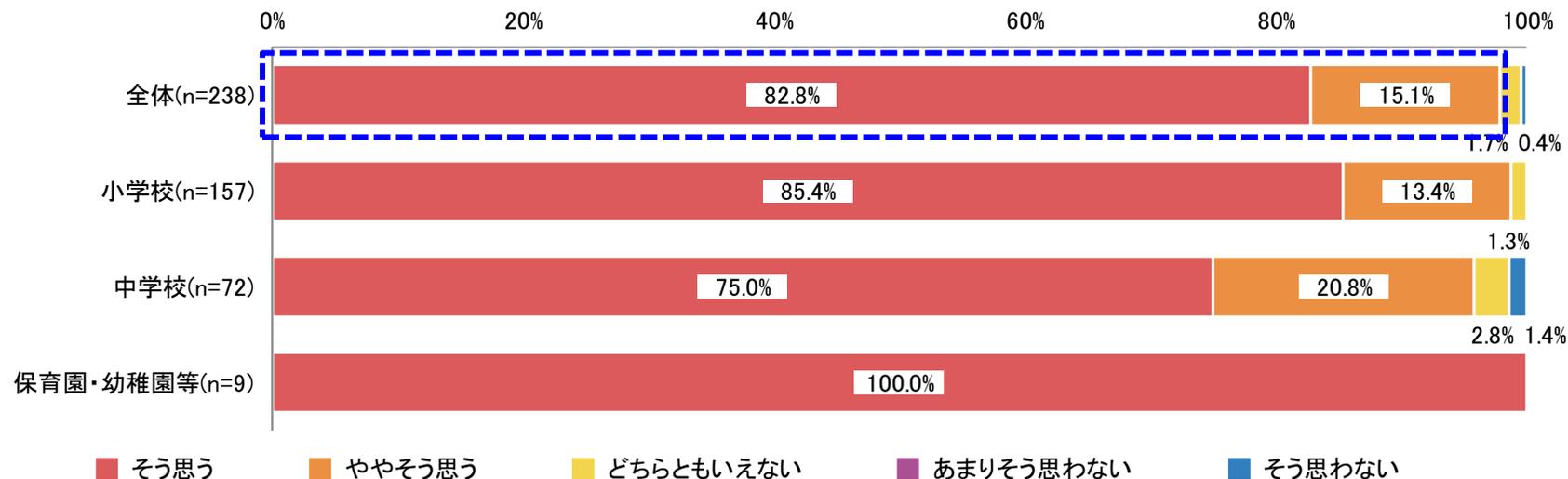
※回答割合が0.0%のものは、グラフ中で非表示としている。以降同様。

※「保育園・幼稚園等」はn=30未満と小さいため、回答割合は参考値。以降同様。

2. 研修への評価

- 研修の内容について、ほぼ全員が分かりやすかった(「そう思う」+「ややそう思う」と評価している。
- 小学校教員では、中学校教員に比べて「そう思う」の割合が高く、特に分かりやすかったと評価している。

Q4.研修の内容は、分かりやすかったか(単数回答)

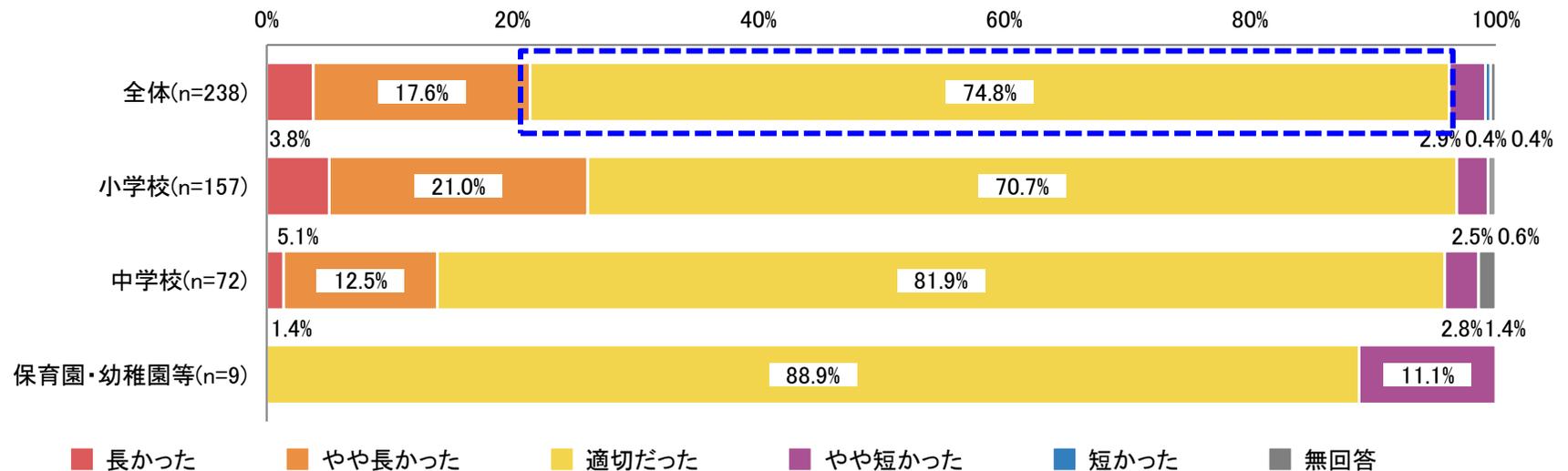


※特別支援学校の教員はいなかったため、分析軸上では非表示としている。以降同様。

2. 研修への評価

- 研修の内容について、全体では「適切だった」が7割強を占めている。一方、「長かった」「やや長かった」も2割強と、一定数見られる。
- 中学校教員では、小学校教員に比べて「適切だった」の割合が高くなっている。

Q5.研修全体の所要時間はどうか(単数回答)



2. 研修への評価

- 研修内容の参考になった点・良かった点としては、以下のような回答が寄せられた。

Q6. 研修内容について、参考になった点・良かった点(自由回答)

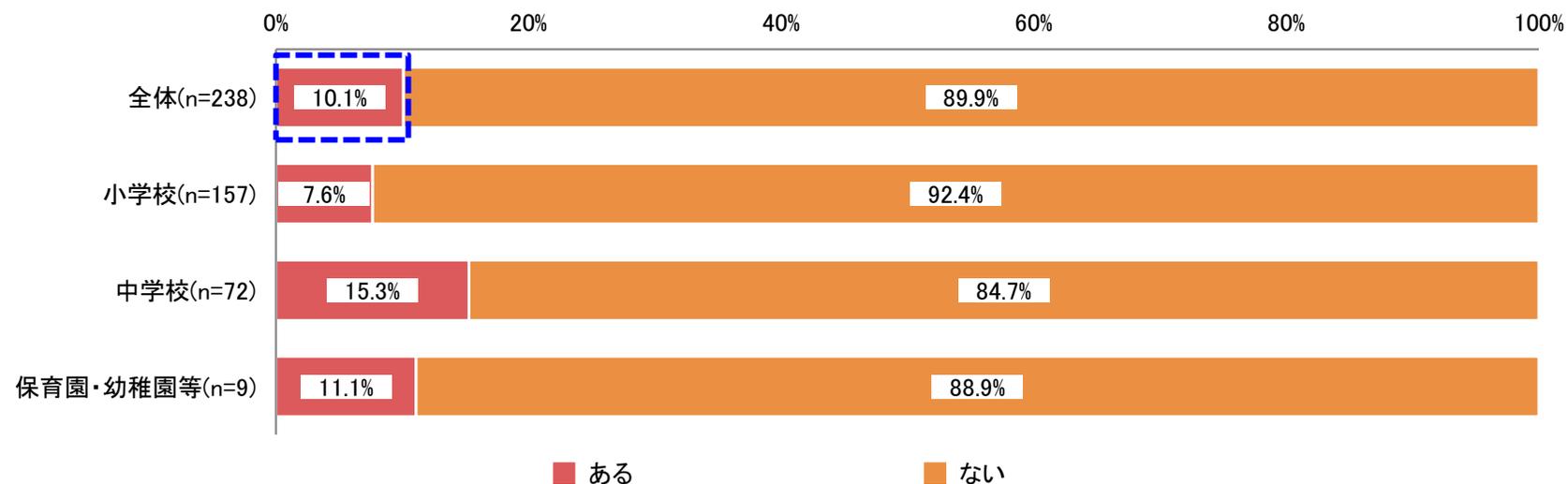
- **話す力の重要性や、自己肯定感の重要性について学べたとの意見**
 - **自分の考えや思いを語るという点**が、今回の研修で改めて大切だと感じました。調べたことをただ発表するだけではいけないなと思いました。思いをもってどう表現するか、そこに重点をおいて今後の授業に取り組んでいきたいです。
 - **自分を主語にして話すということの大切さ**を感じました。また、考える、伝える、見せるの具体的な方法を知ることができて大変勉強になりました。
 - **自己効力感を育むことが大切である**と感じた。声の大きさも発声練習や発声のコツ、声帯を鍛えるなどの工夫で変わることがわかった。
 - **知識を広げるのはAI**でできる。そこから自分で選んで伝えて深めあってより良いものにしていくために**プレゼンがあるという言葉がひびきました**。調べたら出るものだけでなく、その内容をなぜ私たちに伝えたいのかというより深く知るための発表となるように、これからの授業を進めて行ければと思いました。／等
- **講義の構成等に関するご意見**
 - プレゼン教育の必要性や、考える力・伝える力・見せる力の構造について理解できたことがよかった。良いスライドの基準が具体的で、そのまま指導に生かせると感じた。**講義だけでなく途中に対話を行ったことで、学習者の立場で理論などを実感できたので良かった**。
 - **実際の取り組みなども話していただいたので、イメージが付きやすく、分かりやすかったです**。
 - **スピーチについて、話す内容や喋りかたについて段階別に細かく整理されており、とても勉強になりました**。子どもたちに教えるときにも、今はどこの段階なのだろうと、今回勉強させていただいたことを指針として、実践していきたいです。／等
- **その他、要望等**
 - 「話す力」のスモールステップの図が、段階を上手に表していてイメージしやすいと思いました。**データとしていただけたら、掲示して活用できそうですが、そんな都合の良い話はないですねえ…**。
 - 児童や教員に将来必要な能力という前提を踏まえ、話す力とは、話す力を育むには、**をとても濃い内容で知ることができた**。**もう少し詳しい話、話す力を育てる上での教師のファシリテーションまで知りたかった**。／等

※主な回答を抜粋して掲載している。掲載に当たっては、文意が変わらない範囲で表現を修正している。以降同様。

3. モデル研修の参観状況・評価

- アルバ・エデュが実施するモデル授業を参観した経験について、全体では「ある」は約1割となっている。
- 中学校教員では、小学校教員に比べて「ある」の割合がやや高くなっている。

Q7.モデル授業を参観した経験(単数回答)



3. モデル研修の参観状況・評価

- モデル授業を参観した教員等について、参考になった点・良かった点としては、以下のような回答が寄せられた。

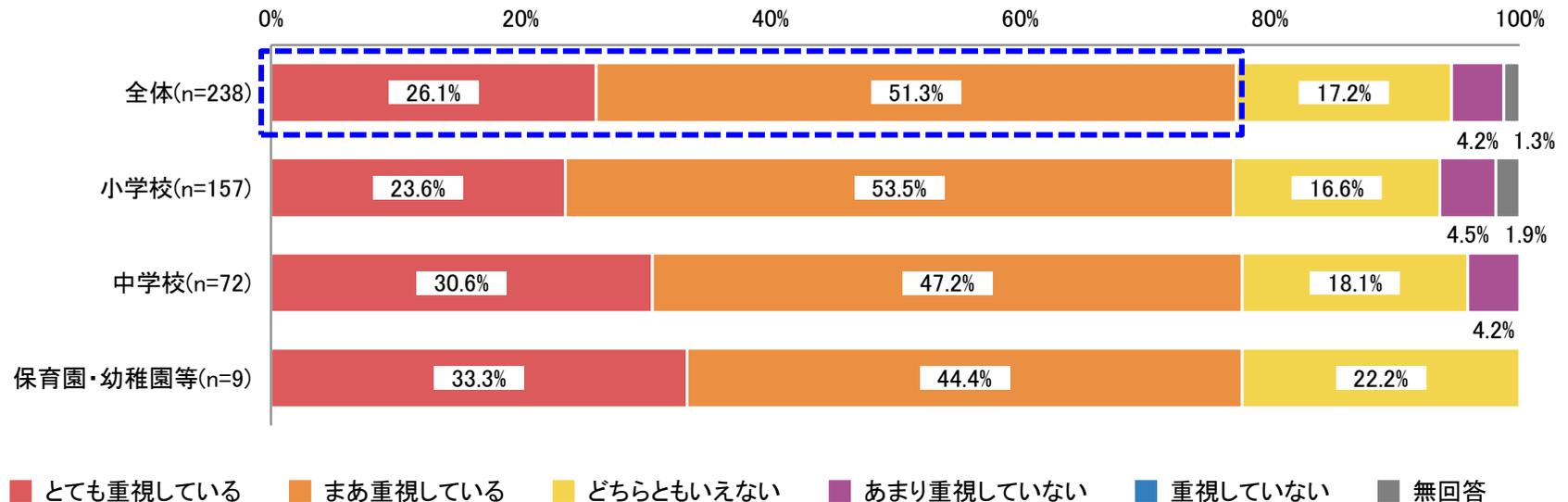
Q8.モデル研修について、参考になった点・良かった点(自由回答)

- 話すことができるようになるというんだと思わせる導入のクイズが良かったです。こどもが主体的に話すための学習をしようと思えることは大切なので、ひとつの案として知ることができました。
- 実際に短い時間ではあったが、子どもたちが実践している姿を見ることができて、自分の授業に生かしたいと感じた。説明が具体的であることが重要なのだ、ということも自身が体験できてよかった。
- 話す内容を考えることが得意ではないと思われる子も、インタビューを受けることで、話が引き出されており、話す内容に深まりがありました。原稿を書いて読むになると、苦手な子や、嫌いな子が目立ちますがそういった様子を感じられませんでした。そういった点に魅力を感じました。

4. 授業実践について

- 普段の授業において、子どもの「話す力」を重視している割合(「とても重視している」+「まあ重視している」)は、全体では8割弱となっている。
- 小学校教員、中学校教員いずれも重視している割合は8割弱だが、中学校教員では「とても重視している」の割合が高く、より「話す力」の育成を重視している様子がうかがえる。

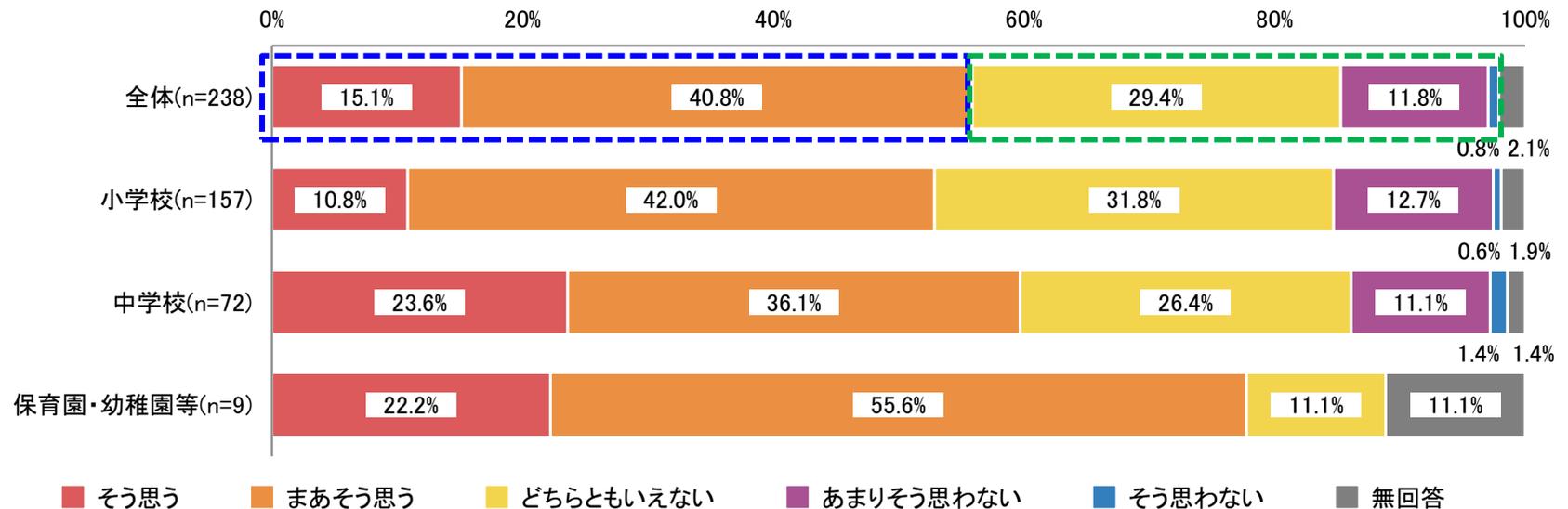
Q9. 普段の授業において、子どもの「話す力」の育成をどの程度重視しているか(単数回答)



4. 授業実践について

- 普段の授業において、子どもの「話す力」を育成するための取組を積極的に実践している割合(「そう思う」+「まあそう思う」)は、全体では6割弱となっている。一方、実践していない割合も4割強と一定数みられる。
- 中学校教員では、小学校教員に比べて「そう思う」の割合が高く、より「話す力」の育成を実践している様子が見える。
- 重視している割合(Q9)に比べると、実践している割合はやや低く、「話す力」を育成する重要性を認識しつつも実践に至っていない場合がある様子が見える。

Q10. 普段の授業において、子どもの「話す力」を育成するための取組を積極的に実践しているか(単数回答)



4. 授業実践について

- 子どもの「話す力」を育成するための取組を積極的に実践している教員等について、実践内容としては以下のような回答が寄せられた。

Q11.子どもの「話す力」を育成するために実践している取組(自由回答)

■ 子ども同士の話し合い・意見交換の機会を設ける

- 子ども達の意見を子ども達同士で共有をさせ、それが求めている回答とは異なっても、自由に話をさせている。
- 短学活でスピーチをやっていたが面白みがなくて、今では喋ることを目的にアドジャンというのを行っている。二人組の生徒が1つのテーマについて話すのをしています。
- 朝の10分間を使って、ペアになってクラス全員が必ず誰かと話すことを毎週月曜日に行っています。全校で取り組んでいます。
- 小グループでの意見交換の時間を毎单元1回以上設けるようにしている。
- 小グループでの対話を1日一回は取り入れるようにしています。 /等

■ 小規模な発表から、徐々に大規模な発表へと広げていく

- 対教師、ペア、グループ、クラスと段階を上げて発表の機会を取り入れている。
- 児童同士で意見を交換する機会を多く設ける。また、発表は少人数からはじめ、全体での発表への抵抗感を減らす。 /等

■ (教師が)聞き手として、児童生徒の話を促す・心理的安全性が保たれる環境づくりをする

- なぜ?どんな風に?とすぐ聞き返して、子どもがさらに説明できるようにしています。また、授業中はできるだけ私が喋らず、子どもが勝手に話し合い始められるようにしています。
- あまり堅苦しくなく、おしゃべりや対話するように、意見や考えをそれぞれの話す力に合わせて聞き、教師が舵取りするように心がけている。
- 子ども達の話す取り組みに対して、悪い評価をしない。
- 話したくなるネタを提示する。話せるまで待つ。面白がって聞くことを教師もやり、聞いている子供もやる。 /等

4. 授業実践について

- 子どもの「話す力」を育成するための取組を積極的に実践できていない教員等について、その理由や、実践が難しいと思われる理由としては、以下のような回答が寄せられた。

Q12.子どもの「話す力」を育成するための取組を実践していない理由・実践が難しいと思われる理由(自由回答)

■ 「話す力」の育成をするための時間(時間数)が足りない

- 時間数が足りない。特に中学校では、小学校からの積み重ねが非常に大切である。にも関わらず、話す力以外の国語の力自体も十分に育てられていないように感じるときもあるので、基礎基本の部分から育てようと思うと時間が足りない。またそれを教えるノウハウを持つ教員も少ないのではないかと考える。
- 授業時数が少ないので、授業を進めることに精一杯になってしまうことがある。自分の考えを友だちに伝える時間は確保しているが、もっとたくさん質問やお題を投げかけたい気持ち強い。
- 時数の関係でなかなかその時間が取れていない。 / 等

■ 教科教育の中に取り入れるのが難しい

- 理科の専科のため、どこで実践するかどうか、分からず、問いかけを簡単にして、挙手を増やすなどの工夫しかできていませんでした。
- 目の前の数学力向上を考えたとき、話す力を意識した授業実践は難しいと考えていました。でも、ちょっとした働きかけや声かけならば可能なので、できることから始めたいと思います。
- 図画工作専科であるため、作品制作の時間が授業の多くを占めており、あまり話す力を育成できるような活動を組み込むことができていない。 / 等

■ 特定の児童生徒、支援を要する児童生徒等に向けた実践が難しい

- 普通の授業では、たくさん話せる子や、少し頑張って話せる子たちに、その力を発揮させたり伸ばしたりする活動を自然に入れることはできて、話すことに課題がある子たちをすくいあげることはなかなかできないから。
- 支援を要する生徒がなかなか自分の考えをもったり発信したりというところまでもっていけないから
- 知的に厳しい子達のことを考えると難しさがあるから、しかしできる方法を考えてやっていきたい / 等

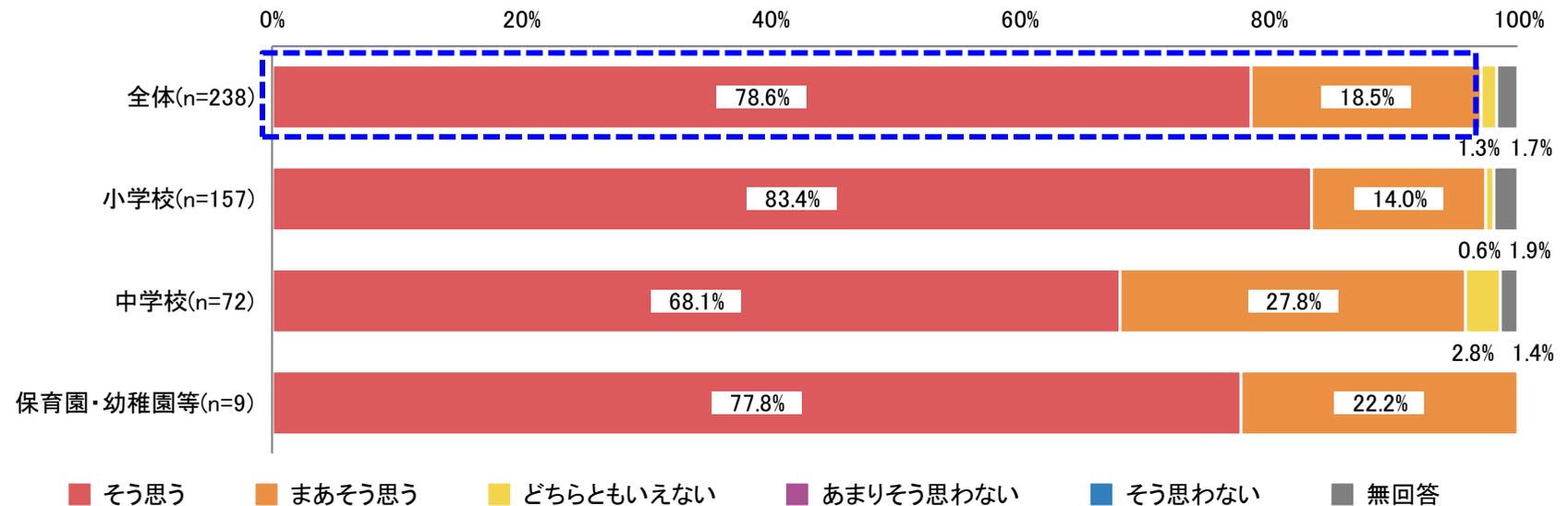
■ 取り組んでいるが、あまり効果を実感できていない

- 朝の時間にソーシャルスキルトレーニングを実施したり、児童同士で自由にチームを組み、課題に対して調べてまとめる活動を取り入れたりしているが、それが「話す力を育成する」ことにうまくつながっているか実感できていなかった
- 実践はしているが、それが育成につながっているのか自信がない。グループで話すや発表する時間などとしてはいるけれど、心理的安全の確保や自己効力感をもたせられていない。 / 等

4. 授業実践について

- 今後の授業において、子どもの「話す力」の育成を重視していきたい割合(「そう思う」+「ややそう思う」)は、ほぼ100%となっている。
- 小学校教員では、中学校教員に比べて「そう思う」の割合が高く、今後重視していきたい意向がより強い様子がうかがえる。

Q13. 今後の授業において、子どもの「話す力」の育成を重視していきたいと思うか(単数回答)



4. 授業実践について

- 子どもの「話す力」を育成するために、授業内で実践してみたい取組としては、以下のような回答が寄せられた。

Q14.子どもの「話す力」を育成するために、授業内でどのような取組を実践してみたいか(自由回答)

■ 心理的安全性を高める

- 本校の全校朝会は、今もオンラインで行っています。スタジオで校長は話をし、児童は各教室のモニターを見て話を聞いています。時々、パワーポイントも使って話をするのですが、私がプレゼンの手本を示しつつ、自分の考えを表出することの大切さ、**それを受け止める教室の心理的安全性の大切さを語っていきたくて思いました**。退職まで、残り半年ほどですが、頑張ります。とても良い研修をありがとうございました。
- まずは、**自分の意見を自信を持って言えるようになるための心理的安全性を高められるような雰囲気づくりをし**、最終的には授業内スピーチを実践するまでもっていき**安心して話せるクラスづくりをしていきたくて**。
- です。担任として、子どもの考えを尊重し、子ども同士の対話のつながりを大切にしていきます。
- **安心して話せる環境づくり**です。まず、子どもには、違うのかな、間違っているのかなと感じると、話せなくなってしまうからです。
- 原稿を読むのではなく、少しでも自分の言葉で伝えることができた子をほめ、子供の成功体験を積み重ねていき、自己効力感を育てていきたくて。 /等

■ 児童生徒に「話して伝わったという感覚」や「話すことの楽しさ」を実感させる

- 子供の体験をもとに、単元を構想したり、子供がやってみたい話したい！と思える単元を構想したいです。いきなり話してみても、と言うのではなく、広げる、深めるといった段階を大切にしたい指導をしていきたくてです。また、様々な単元においてプレゼンをする、という経験も大切だと思います。**伝わった！友達にも自分の思いや考えが広がった！という体験をたくさん積める授業を目指して行きます**。
- 授業の中でこまめに「話す」時間を取り入れ、**話すことで学びも深まることや、自分の思いが伝わる楽しさを感じられるようにしていきたい**。
- 子供の「伝えたい」と思う動機づけのための手立てや、自分の考えをしっかりと持たせるための手立てを考えて、授業に取り入れたい。
- **必要性や危機感や、できるとこんないいことがあるという実感を感じさせられるよう伝えたい**。ゲストティーチャーによる講演など。今回の話にもありましたが、発表というと、写真やパワーポイントづくりに夢中になる子が多いので、資料を限定してのプレゼンに取り組ませてみたい。 /等

■ その他、発声練習やプレゼン、生徒間の交流など

- **発声練習**を取り入れたい。独り言からプレゼンに至るまで、スモールステップを積み上げて実践していきたい。
- グループワークで、自分の調べた物について共有するだけに留まらず、それを聞いての**自分の考えをさらに交流するような取り組み**。
- **発声練習・原稿を作らないで伝える経験・自分の考えをもつことを大切にしたい**ふり返りや教師の問いかけ /等